

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 3月6日

公表: 令和 5年 3月 20日

事業所名 なないろキッズたいない

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%	その日の人数によってはもう少し広さが欲しいときもあるが、概ね適切である。また、活動室には、収納場所を1か所作り、そこに用具や道具を片付け、広く使えるようにしている。また、事業所外(体育館や公園、商業施設、公共施設など)での活動も取り入れている。
	2	職員の配置数は適切である	87%	0%	13%	手厚い支援を行うため、職員を配置基準以上の数にしている。人数に応じてシフトを組んでいる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	38%	24%	38%	借りている建物のため、構造を変えることはできないが、整理整頓に心掛け、安全に過ごせるように努めている。/ 肢体不自由の利用者がいないので、現状で良い。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	87%	0%	13%	職員のミーティングで予定や利用者の情報などについて共通理解を図り目標を設定し、その達成に向けて振り返りも含め、取り組みに努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	87%	13%	0%	保護者アンケートを1年に一度行い、業務改善に生かすように努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	ホームページに掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	25%	0%	七穂会事業所の評価会議に結果を公表し、業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	事務所で職員対象の研修会を実施している。また、外部の研修会についても参加を呼びかけていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	支援している職員からの情報も生かしながら、保護者との面談を大切に計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	74%	13%	13%	使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	利用者に合ったプログラムを準備するために事前に職員で検討をし、楽しめるプログラムになるよう工夫している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	地域での体験活動への参加。地域のボランティアの方々によるさまざまなレクリエーションや読み聞かせ、調理等プログラムを工夫している。。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%	プール指導、買い物でのルールとマナー、公共交通機関の利用の仕方、ボランティアの方々との活動における振舞い方などについて支援している。。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	選択出来る様、活動内容を準備。子どものニーズにあったものを取り入れる。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	学校での様子を共通理解し、細かな対応を心掛けている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	87%	0%	13%	気になる様子についての情報と、対応の仕方を共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	支援(対応)してみた、上手くいったところなど共有し、方向性を統一。ミーティングの開催。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	87%	13%	0%	自立支援と生活の充実のための活動や創作活動、交流活動などを組み合わせながら支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	児童発達支援管理責任者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%	各学校の年間計画、毎月の下校時刻表を基に利用者の送迎を行っている。また、担任と面談を行い、支援に生かしている。学校迎えの時には担任と情報交換するようにしている。トラブル対応は迅速にきめ細かく行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	62%	38%	0%	医療的ケアが必要な利用者は現在いないが、利用される場合には、専門機関と連携をとっていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	87%	13%	0%	ご利用前には、就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園などと本人の情報をいただき、より良い支援が出来るようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	38%	38%	24%	まだ、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所に移行する利用者はいないが、移行の場合には、七穂会と連携を取り合っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	0%	25%	専門機関からの助言や研修は、必要に応じ受けるようにしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	13%	62%	25%	市で主催するイベントに参加して一緒に活動したり、公共施設(プールや体育館)で一緒に遊んだりした。放課後児童クラブとの交流も考えていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	38%	49%	13%	協議会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	月に一度の個人お便りの発行、電話・面接等を通して、お子さんについての共通理解が十分できていると思われる。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	62%	25%	13%	研修会・講演会の開催
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	87%	13%	0%	契約の際に契約書と重要事項説明書を基に丁寧に説明をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	87%	13%	0%	3か月に一度、希望する保護者と面談を行い、悩みを聞いたり助言したりしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	75%	25%	0%	保護者会を開き、講演と座談会を行った。保護者同士の連携を深める良い機会となったので、これからも実施していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	87%	13%	0%	報告、連絡、情報共有の徹底に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	87%	13%	0%	おたより”なないろキッズたいない”の発行
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	同意書を交わし、個人情報の取り扱いには十分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	分かりやすい言葉で短く説明したり、視覚支援を活用したりするようになっている。また、保護者に対しては、気楽に話せるよう普段から心掛けている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	38%	38%	24%	農協婦人部のピザ作り・ボランティア団体による人形劇・昔話・マジック・ハーモニカ演奏など

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	災害対応マニュアルの配布
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	避難場所、避難経路の確認と、危険場所の確認。避難時の歩き方など訓練している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	県主催の虐待防止研修会の資料を基に職員研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	38%	49%	13%	身体拘束を行わなければならないような利用者さんがいない。該当しない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	87%	13%	0%	食物アレルギーについて保護者から詳しく内容を聞き、おやつや調理の際に全職員で細心の注意を払い対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75%	25%	0%	事例集は来年度作成予定。今年度は、ミーティング等で共有